

公園のマナー教室

公園は街の顔、正しく使えば微笑んでくれる。
みんなの公園だから「みんなに迷惑になること」をしないことがマナー。
公園は社会の縮図。公園にとって何がいけないのか、
何がよいことなのかを見て、考え、学べる場所でもあります。

マナー 1
施設を大切に使用し、傷つけたり汚さないようにしましょう。



マナー 2
木や草をかわいがりましょう。



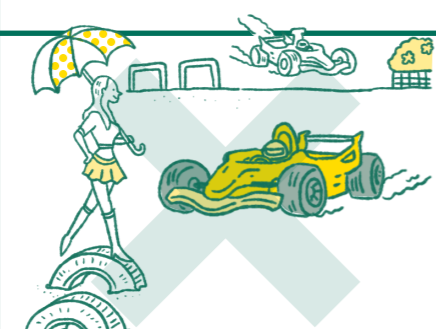
マナー 3
遊具施設は、正しく使って遊びましょう。



マナー 4
ゴミは、持ち帰りましょう。



マナー 5
車両は、乗り入れないでください。



マナー 6
犬のフンは飼い主が責任をもって片付けましょう。



マナー 7
許可なく物売りや、広告、宣伝などはできません。



マナー 8
たき火など、火の使用はできません。



マナー 9
その他、危ないことや、人に迷惑をかけることは、やめましょう。



イタズラに対する処置

2009(平成21)年から2012(平成24)年の4年間でトイレ、遊具、ベンチ、看板などの落書き82件、破損・破壊245件、警察への被害届けの提出7件。市で負担した件数は34件、修繕工事費は4,514,000円。
原因者を調べ、原因者に原状復旧をお願いしています。軽微な場合は、公園巡視の際に処理しています。

■問い合わせ先 公園管理事務所 ☎ 053-473-1829

やまの源流

Vol.4 四ツ池公園

浜松で初めて造られた運動公園は中区上島六丁目にある「四ツ池公園」。1940(昭和15)年に市民の勤労奉仕に支えられ、陸上競技場・野球場のある公園として開設した。

当時の市長、横光吉規は見聞の広い人物で、地域の拡大を唱えたり、大きな公的病院の誘致を実現したりしていた。またこの時代の浜松市内には市民が一堂に介してスポーツや催しをする施設がなく、横光は近代都市としての浜松の将来を見据え、新しい企画として陸上競技場や野球場、プールなどを備えた市民運動公園の設置を提案した。「ずいぶん思い切った施設なり」と報じられた。着工は1938(昭和13)年7月21日、9万2千円の工費だが、当時は、財政ままならぬ国内情勢であったこともあり、土木作業は、市内の多くの中学生(旧制)の勤労奉仕と浜松市職員などが参加して行われた。現在の四ツ池公園西側にあった山を崩し、その土で田畑が埋められた。着工から足かけ3年、手作業で夏も冬も工事は続けられようやく完成。グラウンドは、ギリシャの競技場をヒントに自然の地形を利用して造られたスタジアムというところもあり評判になった。



建設中の四ツ池公園。作業する市の職員の後方に中学生の姿が見える。



2014(平成26)年2月23日、およそ10,000人が参加した第10回浜松シティマラソン。メインスタンド側から見るグラウンド。市民も見学に来たスタンドもいっぱいである。(完成当時)

市民の手による市民のための公園。

そして、11月、浜松で初めてとなる完成したばかりの市営陸上競技場で、市内の全中等学校参加による初めての合同体育大会が開催された。しかし、その後、戦争が激しくなり、それ以上の整備は中断した。

この時代を代表する郷土の偉人に、本田宗一郎と古橋廣之進がいるが、本田は当時、34歳。自動車修理工の域を超え、エンジンの中で最も難しいとされたピストンリングの製造に挑んでいた頃である。数年の歳月をかけて完成させ、メーカーとして第一歩を踏み始めている。古橋は12歳、浜名湖で水泳の練習漬けの毎日。百、二百メートル自由形に学童新記録を打ち立てていた。そんな気概のある時代に浜松に初めて造られた運動公園であった。

この市民協働による公園整備の歴史は、戦後の浜松城の再建にもつながっていく。1873(明治6)年の廃城令により取り壊され荒れ果てていた浜松城を再建する動きが始まり、1957(昭和32)年に浜松城再建期成同盟が結成された。市内に二千個の10円抛金箱が置かれた。市民の浄財の協力で再建が図られた。1958(昭和33)年に浜松城天守閣が復興。名実ともに浜松城公園のシンボルが誕生した。現在の浜松市の公園は、市を中心とした計画的な整備・管理が行われている。公園の新設の際には、市と専門家と公園周辺の市民による公園計画の議論や準備が行われたり、近隣の公園にベンチや花壇を設置したりする市民参加の公園整備が行われている。多くの市民が公園に関わる事業(9、10ページ参照)に参加し、市内の公園は育まれ、美しく保たれている。

試合が開催された。その後、1979(昭和54)年には球場、1980(昭和55)年には陸上競技場の改修を行い、現在の公園の姿に。毎年2月に行われる浜松シティマラソンではメイン会場として利用され、多くの市民ランナーやボランティアが汗を流し競技と交流を楽しんでいる。運動施設ゾーンと対照的に、公園の西には、曳馬野の面影を残した緑豊かな森の中を散策する市民の姿がある。

